

1万人署名後の新方針を確認

区役所移転・鷺沼再開発を考える

NO1
2021年7月25日発行
現区役所を存続し、鷺沼駅前再開発を考える会
発行責任者 猪俣博
☎080-6758-4252
〔部内資料〕

川崎市と東急に住民説明会の開催を求める

1万人署名の成果ふまえて

現区役所を存続し、鷺沼駅前再開発を考える会（宮前区の会）と鷺沼駅前再開発を考える会は宮前市民館で19日、「これからどうする区役所移転・鷺沼再開発」をテーマに学習会を開きました。学習会は、1万人署名が市議会で不採択となった新たな状況の下で、区

役所移転反対、鷺沼駅前再開発の取り組みをどう進めるかについて、議論し、今後の運動方向を明らかにすることを目的に開かれました。学習会では、1万人署名の重みが改めて確認されました。1万人署名に市議会での審議では、①まちづくり局長が「市民

意見を重く受け止め誠実丁寧に対応する」と答弁②議員の中からも、「図書館は大半の区で分館があるのに、宮前区にはない。充実を図るべき」と図書館拡充の意見が複数の会派から出され、タワマン建設では、武蔵小杉の例も引きながら、「駅の混雑は大丈夫か」「人

口増で小中学校の教室は大丈夫か」などの意見が出されました。いずれも宮前区の会が指摘してきた区役所移転・鷺沼駅前再開発の問題点を反映した意見で、1万人署名の重みを示しています。学習会では、1万人署名の成果を足がかりにして、これからの取り組みをどうするかについて、熱心な討論が行われました。

市長選を視野に入れた取り組み強化

宮前区の会の猪俣博事務局長は、1万人署名の成果を踏まえて、移転・鷺沼駅前再開発の見直しを求める取り組みの新しい方針を提起しました。その最大の柱は、川崎市と東急（再開発準備組合）にたいして、住民の声を反映するまちづくりをすすめるために「誠実

な対応」を求め、「住民説明会」の開催を要求していくことです。1万人署名は、行政が住民の声を反映するよう市議会に働きかける取り組みでしたが、今回は川崎市と東急に直接住民の声を聞くよう求める取り組みです。

このなかでは、10月に行われる市長選挙の取り組みを特別に重視することも提案されました。猪俣事務局長は、市長選挙は私たちの声を市政に届ける絶好のチャンスと指摘。区役所移転・鷺沼駅前再開発をトップダウンで進めている福田市政の転換に向け、「福田市長の支持票が他区と比

べて著しく低くすることが必要」として、そうした状況をつくり出すために、市長選挙では、①候補者に区役所移転・鷺沼駅前再開発を推進するかどうか、また市民の声を聞くための住民説明会を開くかどうかについての公開質問状を出す、②立候補者による公開討論会

講演会のお知らせ

鷺沼再開発・現代コンパクトシティを考える

日時 9月6日〔月〕
午後1時30分～
場所 宮前市民館大会議室
講師 岩見良太郎
(埼玉大学名誉教授)

鷺沼駅前再開発は一体、誰のための再開なのか。住民の声を無視して進められる再開のねらいと住民の声を生かしたまちづくりを考える。

運動発展の決意次々と

の開催、③宮前区の会の政策を実現する候補を市長にするための取り組み

を強めることを提起しました。

学習会では、小久保善一共同代表が、学習会のテーマとして設定された「鷺沼再開発に関する基情報」―私たちが誰を相手にしているのか―

はもちろん、向丘出張所の機能向上、野川・菅生地域に有馬生涯学習支援センターのような施設をつくるのが課題になっていると報告しました。

「住民にとって何が問題なのか―誰がどの地域がどのように困るのか」などについてわかりやすく報告。宮前区の会の課題は、居住地域にかかわらず、区民全体が平等に行政サービスを受け、安心して暮らせるまちにする」とであることと指摘。区役所移転、鷺沼再開発

学習会の討論では、市民館・図書館の存続を求める宮崎6丁目の町内会の取り組み、図書館移転と一体で進められている専門性重視の図書館づくりの問題点などについて意見が出され、区役所移転・鷺沼再開発見直しの運動発展の決意が次々と出されました。